

第2号
平成15年
4月

京都市市民参加推進フォーラム みやこ協働通信



CONTENTS (もくじ)

市民参加推進フォーラム第2回会議開催

「まちづくりのしおり」作成 (本能まちづくり委員会)

「若者の市政参加検討中！」(WACCORDの取組)

「京都市電子会議室」試験運用終了!

ほく、市民参加推進フォーラムの
のマスコット「ぎーぶるさん」です。
「市民参加」って何だと思いませんか？
私たち市民が、役所任せにせず、
市政やまちづくりに参加していく
ことなんです。



「市民参加推進フォーラム」第2回会議を開催

平成14年12月17日(火)午後3時から、市役所寺町第1会議室において、「市民参加推進フォーラム」第2回会議を開催しました。

1 開会

2 西島座長あいさつ

3 「市民参加推進フォーラムのこれまでの取組」について報告

- (1) 「市民参加推進条例を考える」シンポジウムについて
- (2) 電子会議室部会(計3回開催)の検討内容について
- (3) 条例勉強会(計4回開催)について
- (4) 「みやこ協働通信」第1号の発行について

4 議題

(1) 議題説明

ア 「市民参加推進条例(仮称)案」大綱素案のパブリックコメントの実施結果について

- ・実施期間 平成14年10月7日(月)から11月15日(金)までの40日間
- ・意見提出者数及び意見数 合計46名(団体1を含む)、94意見

イ 電子会議室検討状況について

- ・平成15年1月～3月にかけて、電子会議室の基本的な運営システムについて検証する「試験運用」を行う。

(2) 議論の概要

・「電子会議室」について

個人のプライバシー侵害や、誹謗、中傷など不規則発言への対策。電子会議室を市民に開かれたものにするにはどうすればよいか。進行役の重要性と庁内体制整備の必要性。

・市民参加推進条例について

まず条例とは何か、本当の参加とは何か掘り下げていけば良いのではないかと。市民参加できる仕組みを幅広く作っていくことや市民意識をいかに高めていくかが大切。

・まとめ

市民参加推進フォーラムとして、市民参加が推進したらこのような京都市民の暮らしができるというイメージをつくってほしい。市民参加で暮らす1日のモデルをつくってほしい。市民の皆さんにも分かり易いのではないかと。

*議事録は、パートナーシップ推進室ホームページ (<http://www.city.kyoto.jp/sogo/partner/>) で公開中



NEWS

「市民参加推進フォーラム」第3回会議開催

平成15年4月24日(木)午後3時から午後5時まで、
京都市国際交流会館第1・第2会議室において、「市民
参加推進フォーラム」第3回会議を開催します。

【内容】「市民参加の取組状況について」
・「電子会議室」の試験運用結果について
・「市役所出前トーク」について など

まちづくり人 登場!!

「市政への参加」だけではなく、市民が自主的に取り組む「まちづくり活動」も市民参加。みやこ協働通信では、そんな「まちづくり活動」に取り組んでおられる方たちを「まちづくり人」と名づけ、様々な取組とともに、まちづくりへの熱き思いをシリーズで紹介していきます。

第2回 本能まちづくり委員会

京都の中心部に位置する本能学区は京染めの職人さんが多く住まれる「染のまち」として知られています。その染めのまちで、「本能まちづくり委員会」は、「歩いて暮らせるまちづくり」や「染めのまち本能」公開工房など、活発な活動を行っています。この度、活動の一環として「まちづくりのしおり」を作成されましたので、これまでの活動とこれからの夢を委員長の西嶋直和さんと副委員長の杉下浩教さんに伺いました。



杉下浩教
副委員長

西嶋直和
委員長

“学校がなくなる”危機感が原動力

○「本能まちづくり委員会」立ち上げのきっかけはどのようなものでしたか？

西嶋 やはり、本能小学校が統廃合で無くなるというのが大きなきっかけでしょうか。我々の魂が無くなったという感じがして、この学区がまとまって行くためには何か新しい目標を見つけ出すことが必要だと思っていました。和装産業が低迷し、職人さんが減っていく一方で、マンションや駐車場が増えている。その中で、これからも、本能学区に住み続けていくためにはどうしていけばいいかという課題を抱えていました。そんな折に、京都市の都市づくり推進課から「職住共存地区整備ガイドプラン」の説明の際に「本能学区としてまちづくりを進めてもらえないか」という呼びかけがあったんです。

「まち歩き」、「公開工房」で“まち再発見”

○平成11年12月にまちづくり委員会を発足されましたが、当時はいかがでしたか？

杉下 最初は暗中模索で、なにをしたらいいかということがまったくわかりませんでした。まずは「まち歩き」を開催。翌年には「歩いて暮らせるまちづくり」ということで、染めのまちの特色を見てもらおうと、学校での実演とともに、公開工房も行いました。それらの取組は、我々の住んでいる地域の財産とか地域のよさ、オリジナリティが発見できてよかったという意見が多かった。

西嶋 こんな仕事しておられたんですかってね。本当に仕事の再発見ができたんじゃないでしょうか。とくに学区内の参加者が多く、よかったなあと思います。

○そのような活動を進めていったなかで地区計画を策定されたわけですが。

西嶋 平成13年頃になりますが、マンションが増え続け、このままほうっておいたら取り返しのつかないことになるのではないかという思いを持っていました。京都市からも地区計画をつくったらどうかという話がでてきたわけです。当時、「地区計画」はその地域で、景観、高さの問題を規制していくためのものと考えられていました。ですが、マンションに住まわれた人も含めて、地域とどう融合していくかを見つけ出すのが我々の役目と思っていましたので、我々の思いを伝えていかないといけないと考えたんです。そのような意味の地区計画にしていきたい、すべての人に平等に納得してもらえるものを作り上げたいということで高さだけにこだわらず、「住みたいまち、育てたいまち、

働きたいまち、本能」をつくるための地区計画の案を作成し、地域の方に賛成していただきました。平成14年7月に都市計画審議会承認をもらったというわけです。

新しいふるさとの夢「まちづくりのしおり」

○「まちづくりのしおり」を作成されましたが

西嶋 地区計画を作成している中で、「この内容だけではみんなに十分理解してもらうことは難しい。この内容をみんなにより理解してもらうように我々の思いをしおりの中で伝えていったらどうだろう」という話が出てきたんです。

このしおりには、わたしたちの思いが詰まっています。「本能がめざすまちの姿」というページがありますが、地域の活力、住み続けるためのまちづくり、活動、産業というものを皆で考えていかないといけない。今では、マンションだけではなく、一般の住宅でもこういうお付き合いがなかなかされにくくなってきているんです。

杉下 このしおりをもとにして、新旧住民の垣根を低くして、住民同士の交流を少しでも多く持っていくことで、腹を割ったお付き合いをして行きたいですね。そういう場を提供していくということも我々の役目ではないかなあと感じます。この地域に住んでいる方がここに住んでよかったな、ここに住んで夢もふくらみ、明日への活力を養えるようなそういう魅力あるまちをみんなの手でつくっていくということが大切だと思います。そのことが、働きたい町、住みたい町、その辺につながってくると感じます。

西嶋 我々ももともからいる人は知っている。新しくこられた方、特にマンションにお住まいの方は何かのきっかけで協力をいただいたら、そのあとでは話もできる。まちで出会っても、そのときは表情もぜんぜん違う。心から喜んだあいさつですね。

杉下 新しく来られた方は出会いを求めておられるんだなあと感じます。

○新しいふるさとができたようですね。

西嶋 そうそう。そういうきっかけをまちづくり委員会の活動を通じて広げて行きたいと考えています。



●本能まちづくり委員会のホームページは、
<http://www.honnoh.net/>

「市政」と「若者」はかけ離れたもの。それがあたりまえの昨今ですが、「京都市ユースサービス協会」の呼びかけで「青少年が市政やまちづくりに参画する仕組み」を京都市に提案するため集まった若者たちがいます。17歳～25歳の若い皆さんが、「こんなことをすれば市政は身近になるのに」、「若者の力をこういうふうを活かしたら」と活発な議論をされています。そんな彼らの熱い思いを、フォーラム委員の小林達弥さんがインタビューしました。



WACCORDの皆さん

参加のきっかけは？—みんないろいろ、肩ひじ張らずに

小林 皆さんこうしてWACCORDに参加された動機やきっかけって何ですか？

原 私、課外活動が好きなんです。「笑」いろんな人といろんな話ができるのが、楽しいんです。

佐賀 ほかも普段関われない年齢層と交流できたらなあ。

清水 ボランティアに興味があって何かしたいと思って参加しました。

真田 京都市がやった「大風流」に参加して、今度は企画する側に戻るのも面白いのではないかな。

林 京都市が市民と関わることを取り決める中で、京都に住んで京都がちょっと好きという「超小市民？」の普通の人の意見が、どこまで反映されるのか見てみたいと参加しました。

池野 私も、無関心だった市政がWACCORDの活動でどんな風になるのか興味があって参加しました。

佐野 下のほうから頑張って日本を元気にしていきたいと考え参加しました。直接市政に参加して若者が楽しくすごせるまちを作りたい。

北澤 ほかは、新聞でWACCORDの記事を見た瞬間に参加しよう。（笑）

小林 こんないろいろな動機があることが面白いなと思います。重くない、軽い感じがいいですね。

京都をどんなまちに？—「住みたいまち」「面白いまち」etc.

小林 若者が楽しいまちをつくりたいという話が出ましたが、京都をどのようなまちにしていきたいですか？

清水 京都は住みにくいとおもっています。外からは観光客が一杯来てくれるが、今度は、自分たちが住みたいまちにしたいな。

佐賀 どこの出身か関係なく交流できるようなまちにしていきたい。

池野 そうですね。私は亀岡市民ですけど。（笑）それから、「おこしやす」という言葉が似合うまちになってほしいな。

原 そういえば、水フォーラムで大阪に外国の方を招いたとき、大阪のイメージを一新したいということで名物の「たこ焼き」を出さなかったというのがあったけど。京都はそんなことをしてほしくないな（笑）。文化って大切ですね。

佐野 若者が自分のやりたいことをやってそれが認められるようなシステムがあればいい。芸術にしても音楽にしても、京都で有名になることが一つのステータスになれば、京都で若者がそのまま頑張れる。京都ムーブメントみたいなものが起こってほしい。

林 そう。三宮やアメリカ村に張り合えるようなまち。そこに行けばエネルギーをもらえるような。「京都は面白い」とい

えるまちにしたい。面白いとまちに活気が出てきて市民参加が進むのではないかな。

小林 ほかも皆さんと同じ思いです。大阪、東京に負けたくないですね（笑）。

市民参加とは？—実はもうやっているのかも

小林 市民参加が進むという話が出ましたが、皆さんが考える市民参加ってどのようなものですか？

原 京都まつりとかな。

真田 漠然としてイメージがわからなかったんですけど、大風流に参加して企画する立場になるとわかってきた。市民参加というより市民企画というほうがぴったりするのかな。

林 市民参加って実はもうやっているんじゃないでしょうか。自分たちが税金を納めて、京都に暮らすこともそうだと思う。いま市民参加をしていないとか問題になるのは実は気が付いていないだけではないか。思っていることを口に出して、形にしてみませんかというのが、今から求められている市民参加ではないでしょうか。そのことをみんなに気づいてもらう。それが市民参加を進める一歩じゃないですか。

小林 市民参加というのはそれぞれ捉え方が違いますね。京都のことを思っているだけでも市民参加。助け合いや持ち寄りの気持ちが市民参加というひともいる。そのあたりはもっと議論していかなければいけないと考えています。皆さんがそれぞれが持っている能力をプロジェクトの中で活かしていただき、いいものができることを期待しています。わたしは「おっさん」ですが、今日、皆さんの話を聞いて、元気になりました。

取材の感想



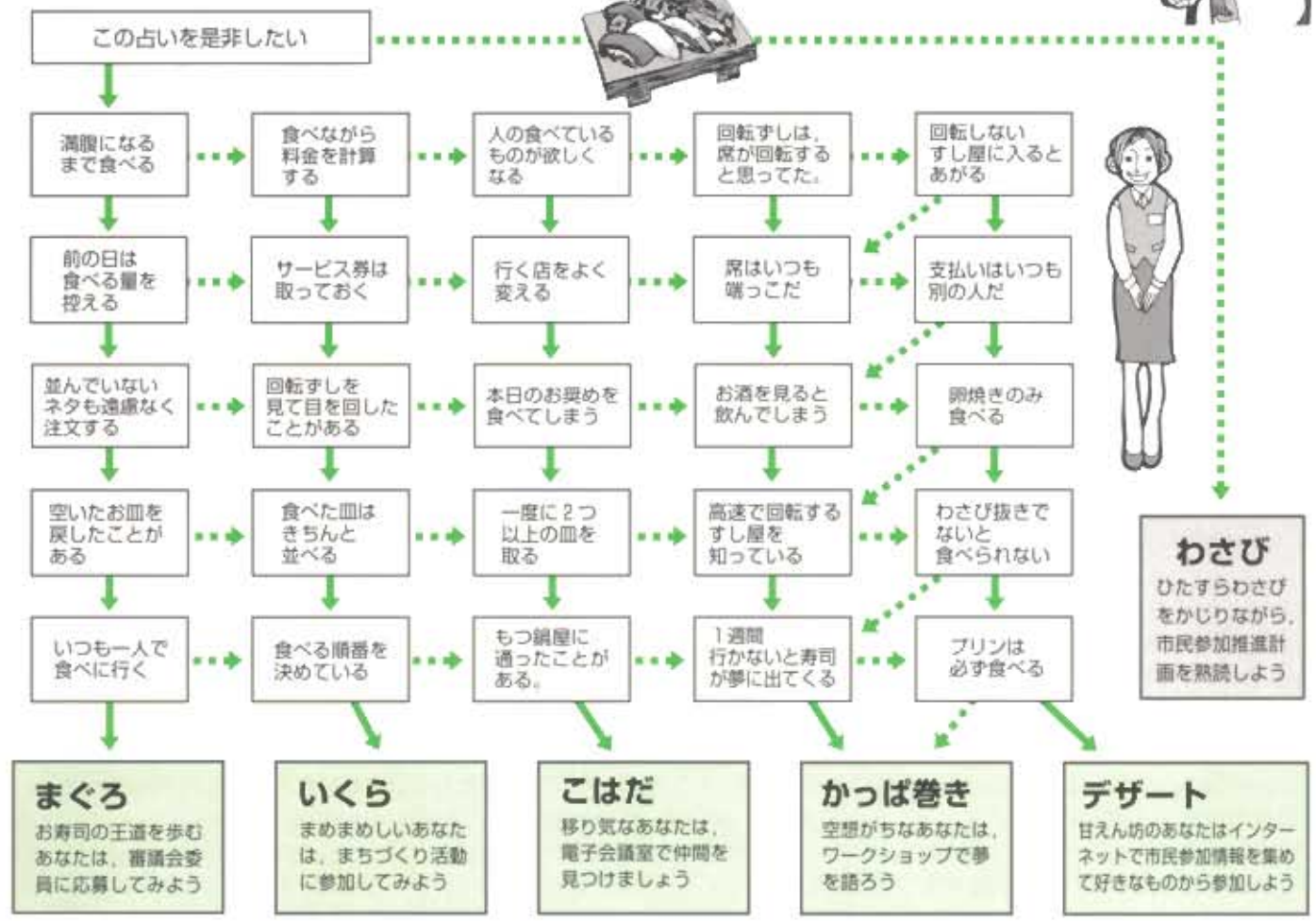
小林 達弥 委員

(市民参加推進フォーラム委員)

大変面白かったです。年齢もバラバラ、地域もいろいろ、そしてメンバーに入る動機も違う若者が、「京都における市民参加について自分には何が出来るか」等を真剣に話している姿を見て少し感動に近いものを感じました。また、何か上手く説明できないけど楽しい雰囲気やそれぞれの思いみたいなものが素直に伝わってきました。社会の処世術を知らないゆえの純粋な未知なるパワー、やっぱり時代を変えていくのは若い力だと実感しました。彼らの力をどのように社会に活かすかを考えるためにも、これからは、若い人という言い方で区別するのではなく、共に手をつなぎ、共に考えていく姿勢が必要ではないか？と思いました。

市民参加回転ずし占い

→ Yes (はい)
 No (いいえ)



京都市電子会議室「みやこeコミュニティ」試験運用終了!

「市民参加機会の拡大」と「インターネット上でのコミュニティの形成」を目的に、新しい参加の仕組みとして、インターネットを活用した「電子会議室」の設置に取り組んでいます。

平成15年1月20日～3月20日の60日間、基本的な運営システムの点検のため「試験運用」を実施しました。市民ボランティアとして110名の方にご協力いただき、「電子会議室を考えよう」、「YOUTH VOICE (ゆーす・ばいす)」、「お京ちゃん家の食卓」、「ストップ ザ 地球温暖化」の4会議室へ、472の発言があり、活発な議論が展開されました。

この試験運用の結果を基に、15年度の試行実施に取り組んでいきます。



事務局からのお知らせ

市民参加推進フォーラムニュースレター「みやこ協働通信」の発行

これからも市民参加推進フォーラムの協議状況や開催予定、シンポジウムの開催予定などを、市民参加推進フォーラムニュースレター「みやこ協働通信」として発行し、市役所・区役所、図書館などで配布します。

また、ニュースレターに関するご意見・ご感想を事務局までお寄せください。

市民参加推進フォーラムは皆さんの声を活かして行きます。ご意見は事務局までお寄せください。

市民参加推進フォーラムニュースレター「みやこ協働通信」 第2号 / 平成15年3月31日発行

事務局: ☎604-8571 (住所記載不要)
 京都市総合企画局 パートナーシップ推進室
 電話 075-222-3178 / FAX 075-213-0443

Eメール partner@city.kyoto.jp ホームページ <http://www.city.kyoto.jp/sogo/partner/index.html>

「題字・イラスト」は京造造形芸術大学情報デザイン科4年 野上梨絵さんの作品です。